令和6年産　かんきつ栽培こよみ（家庭果樹用）

JA尾張中央　営農指導課

時期	生育/管理	使用日	対象病害虫	RAC コード	薬剤名 濃度　（収穫前日数／回数）	水１００ℓ当たり薬量	肥料名	1㎡あたり施用量
12月		／					ＦＴＥ有機配合８６６	
1月	（上旬）	／	ヤノネカイガラムシ その他カイガラムシ サビダニ・ハダニ類の越冬卵	未	★マシン油乳剤95 ４０倍　（冬期）	2.5ℓ	又は	１４０g
3月	発芽前	／					園芸有機Ａ８０１号888	
5月	（中旬）	／	そうか病 灰色かび病	11・7	（展着剤加用） ★ナリアＷＤＧ 2,000倍　（14日／3回）	５０g	◎記載の肥料が無い場合には、窒素成分が同じくらいの肥料を施用してください。 休眠期の12月から発芽前の３月にいずれかの肥料を施用してください。 果実肥大期の6月・収穫前の10月に化成肥料を施用してください。	
			アブラムシ類 ミカンハモグリガ	3A	アディオン乳剤 2,000倍　（14日／6回）	５０cc		
6月	（中旬）	／	黒点病	M03	（展着剤加用） ★ジマンダイセン水和剤 ６００倍　（90日／4回） （みかん：30日／4回）	１６６g	グリーンアタック14・8・10	２０g
			アブラムシ類 コナカイガラムシ類	4A	（展着剤加用） スタークル顆粒水溶剤 2,000倍　（前日／3回）	５０g		
7月	（中旬）	／	黒点病	11・7	（展着剤加用） ナリアＷＤＧ 2,000倍　（14日／3回）	５０g	参考 <有機質> ネオフルミックス(8･7･6) 園芸有機A801号(8･8･8) <化成> グリーン化成444(14･14･14) 園芸化成(園芸特１号)(14･8･13)	
			ミカンサビダニ ハダニ類	6	（展着剤加用） コロマイト水和剤 2,000倍　（7日／2回）	５０g		
9月	（上旬）	／	黒点病 褐色腐敗病	11	（展着剤加用） ★ストロビードライフロアブル 2,000倍　（14日／3回）	５０g		
			ミカンサビダニ ミカンハダニ	20B	（展着剤加用） ★カネマイトフロアブル 1,000倍　（7日／1回）	１００cc		
10月	収穫前						グリーンアタック14・8・10	４０g

（備　考）

＊５割ぐらいのリスクを考えた場合の、防除指針です。

＊ＲＡＣコードは、農薬の系統を表すもので、同じ記号の農薬は同系統の農薬です。

＊ＲＡＣコードの活用により、薬剤抵抗性をつけないよう、違う系統の農薬でローテーション防除をしましょう。

＊★は、防除をした方が良い時期です。

＊薬剤を混合する場合、原則 展着剤→乳剤→フロアブル→水和剤の順に混ぜる。

＊防除薬剤には、展着剤（アグラー：水100ℓ当り10cc）を最初に混ぜてください。

①幹にゴマダラカミキリの幼虫が侵入したら、虫フンの出ているところから園芸用キンチョールE（１４日／６回）（RACコード３A）を食入部に専用ノズルを差し込み、薬剤が流出するまで噴射する。

②アブラムシ類が多発した時は、５月中旬にダントツ水溶剤２,０００倍（前日／３回）（RACコード４A）散布をする。

③カイガラムシ類が多発した時は、６月中旬にコルト顆粒水和剤２,０００倍（前日／３回）（RACコード９B）を散布する。

④ミカンハダニが発生したら、４～５月にニッソラン水和剤２,０００倍（７日／２回）（RACコード１０A）を散布する。
同一系統の殺ダニ剤は、年１回の散布とする。

⑤ミカンハモグリガが多発した時は、8月下旬にダントツ水溶剤２,０００倍（前日／３回）（RACコード４A）を散布する。

＊施肥基準の作成にあたって、生産部会、産直部会、愛知県施肥基準を参考にしました。
目標収量（2,500kg），窒素成分（２０kg），成木本数（５０本）で施肥設計をしました。
基肥として、１２月なら緩効性・３月なら速効性肥料を施用してください。
なお、園地観察・収量・土壌診断結果を参考に適正な施肥を行って下さい。

＊産直店舗へ出荷される方は、産直部会用のこよみを使用してください。

令和５年１０月作成